
Novel jack

sur

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Novel jack

【Nコード】

N0270I

【作者名】

sur

【あらすじ】

私は小説の主人公だ。だから、私が念じればこの世界はどうにもなるよ。

私は小説の主人公だよ。

まあ、ここは小説の世界だからね。だいたい僕の思うようになったてしまうんだ。例えば、今ここには何も無いけど、パンが食べたいと思えば目の前にパンが現れる。でも、それだけじゃあなたには伝わらないよね。じゃあ、ちゃんと目の前にパンが現れたという証明にそれを食べてみるよ。

——朝、目を覚ましベッドから出ると、昨日の朝よりも肌寒く感じた。窓の外の枝葉たちも着実に色を変え、秋の到来が近づいてきたんだなと感じさせる。私は部屋を出て、眠い目を擦りながらリビングのテーブルへと向かい、数年前に購入した安い木製の椅子に腰かける。無造作にCDや本が重ねられているテーブルの端から食パンの袋を掴み、口に結んであったゴムを解く。確か昨日も朝食にパンを食べたはずだが、別に自分はローマの上流階級貴族でもあるまいし、いちいち見た目や格好を気にしてはいないのでとりわけなんでも良かった——

これは例えば、だけどね。パンはパンでもいろんなパンがあるし、どういう状況でどんな気持ちで食べるか、なんて僕らはいろいろ考えて動かなきゃいけない。

それはね。とても単純なこと。少しの目の位置、視点を変えることで僕らの世界は何にでも見えるんだよ。

それは、小説の世界も現実でも同じなんじゃないかな。

まあ、僕は小説の主人公だからね。小説の世界でこれからやっていくわけなんだけれども。小説の世界も楽じゃないぜ。まったく。

——スラム街のような場所の路地裏で力もなく横たわる。何も考えず走ってはきたものの。足はこれ以上の移動を拒むかのような動かなくなり、三日間口々に飯を食べていないこの体は、動物たちが冬眠のため蓄えを集める季節と相まって凍えるような寒さが襲ってくる。私は無力だ。こんなにも。ふと、頬に冷たいものが当たった気がして空を見上げてみると、そこかしんしんと雪が降り注ぎ始めていた。しんしんという表現はまさにぴったりだと思う。最初にこの表現を思いついた奴はきつとあまりの的確さとその嬉しさに一人でニヤニヤとほくそ笑んでたことだろう。しんしんと、冷たいものが降り注ぐ。だんだんと思慮することさえどうでも良くなってくる。大通りの方に目を向けて見ると、身なりのいい男がホットドッグを食べながら歩いている、なぜわざわざこんな街で。奴らはどうせ見下したいだけなのだ。自分より下の人間を。それで自分の地位を確認して優越感に酔う。それだけなのだ。奴と目が合う。奴はにやりと笑いながら、こちらに向かってソーセイジが挟まっていたパンの部分を取り投げた。私の倒れている場所から2M程の位置にそれが落ちる。奴は捨てられたゴミでも見るような目で一瞥した後で去って行く。なぜ同じ世の中に住んでいるのに、パンを食べる奴と食べない奴が存在するのだろうか。貧困にさらされた民衆の前で飽和な食べ物を捨てる行為は罪ではないのか。動物愛護を訴えながらお前は肉を食う。魚を食う。地球温暖化を訴えながら、冷房暖房をつけた部屋で快適に暮らす。アフリカの貧困層を救おうという奴がおしやれに気を使う。そんな偽善的な奴らがのうと暮らす中で、ただ私は無力だ。現に、今パンに向かって手を伸ばす力さえもない。数時間後にはしんしんと降り積もる真っ白な雪に覆い隠され私の姿は見えなくなってしまうだろう——

これは嫌だね。パンは目の前に現れたけどさ。いくら小説の主人公がどんなものにもなれるからと言って、僕としてはこういう世界は嫌だな。でもしょうがないじゃん。みんなが楽しいなら。

結局誰かに夢を与えたり、楽しみを提供する人って。自分が夢を見たり楽しんだりっていうのがひどく難しいよね。いや、そういう幻想を抱くのもいけないんじゃないかな。自分たちが幻想なんだから。アイドルや芸能人みたいに。

君たちが次に小説を読む機会があつたら考えてほしい。その主人公や登場人物が何を伝えたいのか。どんな気持ちでなんで動いているのかを。

私としてはあまり好きな言い回しじゃないんだけどね。世の中には意味のないことなんてない。

社会の根幹で地味な仕事を続ける人たちを無視して自分がいるおかげで……. と思っではいけない。

必ず、どんなことでもあなたが行うことには意味がある。そして責任がある。

世界が知識を持って動いている現代で、本当の無知がどれだけ怖いのか。

少なくともね。僕たち小説の世界の住人はそういうことに関して、君たちに教えてあげられることがいっぱいあると思うんだ。

だから気が向いたらこっちにおいでよ。この世界に。

この世界に。

（後書き）

小説の主人公が、自分で「俺は小説の主人公なんだ！」って言うてたら面白いなあと思って書きました。ネタ的には多分、もっと広げていけそうな気がします。僕の場合、あまり設定活かしてませんね。別に「小説の主人公だ！」って言ってもあまり関係がないような……

とにかく！ 閲覧してくださった皆様ありがとうございます。只々感謝です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0270i/>

Novel jack

2010年10月28日07時22分発行